

西
哲
格
言
鈔

內藤傳右衛門編纂

全

內藤 萬壽閣

內藤傳右衛門編纂

西哲格言鈔

全

明治十二年二月

內藤氏藏版

格言鈔叙



匹夫而爲百世師。古聞其人。而未見其人也。一言而爲天下法。古聞其言。而今又見斯編也。夫古聖賢之行。道或窮之于其理。或求之于其實。至一旦豁然貫通。而後煥乎發之于言辭。故其言一出。則千載之下。確乎不可復易矣。是其格言之所以爲格言也。然則今之國家之事。亦應不出此編之外。古語格語之爲吾師亦偉哉。今者內藤氏格言鈔成。請叙聊書。詹言。

冠其首云

明治十一年十一月

東海

三教狂史繚亂

西哲格言鈔

○凡例

一凡そ古語格語は其の語意に簡短にして其の意味殊どに廣遠なり故に片言にして或は數般の事理を盡す可きあり半句にして或は萬端の意旨を蔽ふ可きあり決して一物理を指明するの言必らずしも其一物理に止まるに非る也然るに鈔中政法、人權、學藝、等數門に部分せし者は

是れ只繕問の便を圖るのみ覽者其の類別に偪
倚して本言の眞意を傷らざれ

一鈔中樂ね西哲の格言を纂輯するものと雖も或
は古語古詩の類をも併せ錄する者なしとせず
而して單に西哲格言鈔と題する者蓋し古語古
詩賦の如きも亦或は古聖賢の言辭に出て而し
て後世俗間傳ふる者なるを知ればなり古人言
ふ道に或はざるの言之れを聖言と云ふと覽者

其れ之を諒せよ

一古聖賢の言多し該鈔の如きは蓋し僅かに其一
分を鈔するものにして未だ以て其の門牆を窺
ふに過ぎず雖然其の格言は則ち格言なり覽者
倘し能く一を聞て十を推すの志あらば亦た以
て餘師たるに足らん乎若し夫れ文中誤脱の如
きは請ふ幸に是正せられんことを

部類目次

- 政法 人權
- 立志 勉業
- 學藝 習修
- 智行 德義
- 志氣 心力
- 性情 習俗
- 財政 儉密
- 勢機 軍事
- 雜

西哲格言錄

內藤 萬壽 閱

内藤傳右衛門 編纂

○政法 人權

○人衆を統御するの大道は公平に自ら勞苦を分

ち取るに在るなり (那比爾)

○外より統制せらるゝ所は由て生ずる所の利害

は其の關係する所甚だ少し (新運爾斯)

○政體應變は隨處にして隨實に在る (同)

○邦國の政事は人民の光輝の返照なり (同)

○世人常に法度を信ずるとは分外に多く人民を信ずるとは分外に少し (英國參國事臣士禮立)

○憲政の國と雖も其人民に箇々自立する者ある間は極惡の徵候を生せず又如何なる政體を問はず人民の自立を壓壞するものは是之を憲政と云ふべきなり (彌爾)

○人民真正の自由は政府にて捨て置き其職任を

怠たるが如く見る中に顯はれ順便のと生じ來るなり (同)

○講説印行の自由は是非の心の自由の部内に属せり (同)

○一家の治法は則ち一國の治法其の正邪純駁一致なし各家の私論は則ち國國の公論其曲直高下二端なし (斯滿爾斯)

○共同すれば存し共同せざれば亡ぶ (西覺斯巴爾)

人を吊せし語)

○内亂は國家の死病なり 英國政論家ホッペス)

○余をえて一年間新聞紙の論説を全管するを得
せしめば政治及び社會に向ひて一大改革を施
すは難事に非るなり (英國の名士幕苦)

○大哉新聞記者衆輩は各々世界の主治者たり保
護者たるに非ずや (甲來爾)

○新聞紙は不學迷妄輿論壓制を敵として社會の

爲に攻守するの論場にして其の捷の我に歸す
るや必定なり其の争ひは疑惑の間に在り故に
疑惑晴れば則ち其の争ひ止むを以て便捷の速
かなる其右に出る者なし厭制を主旨とするの
貴賤が常に新聞を嫌惡するは紙上に於て日に
其の怨嗟を誦み新聞の名を聞けり爲めに悚然
戰慄するが故なり茲に於てか嫌惡の極まる所
は遂に之が鉗制を避く可らずとするに至れり

雖然新聞紙は大衆の變革を司とる者なり變革
とは國家を顛覆するの惡意に非ずして政治を
改良するの善意に出るを云なり（希臘新聞歴史）
○立憲政治の政府に於て自由刊行の禁限を行ふ
は當代の大難にして不理の慢行なるを以て朕
はエルバ島より還京せし時都て新聞を放して
自由に任せたれども新紙は決して朕が敗滅の
禍ひに與りて力ありしには非ず是れ朕が保證

する所なり（那暴倫）

○衆多の自由は政治に管約せらるゝと雖ども獨
り言論の自由は政治をして其の職務を保守せ
しむるの勢力あり是れ歷世に於て信任の爲に
横議の禍ひを買ふ所以なれハ無辜の生血を洒
いで以て稍く世界の暗濁を清淨したるなり

（英爾京）

○我に自由を與へよ否らざれば我に死を與へよ

(盧騷)

○若し自由社會に言論の自由を禁ずるを得ば太陽を宇宙に隠蔽するも亦容易なるべし (索古刺意)

○人生の不幸は言論の自由を奪はるゝより大なるは無し (丁莫斯典)

○自由に生長する人が國事を論ずるの自由を得る是之を眞正の自由と云ふ (施利彼泥)

○極運の盛時に遇ひ一事の吝嗇すべき無きとい

是れ人生の得がたき所なれば我又此の得難き

の自由を望まず只愁訴を聴くに自由を以てし

之を察するに深思を以てし之を改むるに敏速

を以てするを得ば則ち賢哲の注目する人文の

自由を伸達するに足れり (密爾就)

○自由の衆多なるも我に興ふるには先づ我が信ずるに従ひて之を知り之を言ひ之を論ずるの

自由おづらを以てせよ (同)

○法律はふりう密なるに随したがひて犯人多し (西語)

○度外どぐわいの心切しんせつは怨うらみを導みちびく (同)

○咎とが無なき謝罪しえいを請こふこと勿なかれ (同)

○自儘しぜきの理屈りくつを算あふれば二月も尙なほ三十一日あり (同)

り (同)

○明確めいめつなる本心ほんしんは詐いつはりの訴訟でしやうを冷笑せうりやうふ (同)

○虐惡ぎやくあくの君主くんしゅは法律はふりうを作るに賢かこし (同)

○財産ざいさんの爲ためめに婚姻こんいんするは自主ちしゅの權けんを賣うるものなり (同)

なり (同)

○虐政ぎやくせいは一揆いつぎの母ははなり (同)

○面貌めいめうに據よりて裁判さいはんすること勿なれ (同)

○仁政にせい惠法けいほうは劍けんを帶おびずして能よく國くにを治をさむ (同)

○自主ちしゅ自由じゆうを守るは自主ちしゅ自由じゆうに非あらず (同)

○人法律ひにふりうに詳つらかなれば郷黨きやうたうに厭いとはる (同)

○證據ようこのみを要ひするとせば談論だんろんも無益むえきなり (同)

○七人は社を結ぶべく十人は煩雜を生ずべし(同)

○千斤の法律は一斤の慈愛なし(同)

○正理は能く人を縛す(同)

○哲言は枝葉にして証言は葉實なり(同)

○眞理正道には氣候なし(同)

○世の所謂公論なる者は中に幾分の眞理を含めるのみにして全く皆な眞理なるに非ず(彌爾)

○一定の暴虐とは其の相距る唯だ一間のみ(西哲)

○自由の尊ら憑る所は唯刑法の善良なる點に在り
りと雖ども抑々人權を破りて忽ちに危險に至らむむるど否やとは治罪法の良否を以て最とす(西哲の語)

○其の無辜たるを自ら保證すべき辨證を得ざる
ときは一身の自由は地に墜たるなり(同)

○公衆の幸福は最上の法律なり(法語)

○後に布告する制法は先きの布告の之に抵觸す

るものを廢す (同)

○法律の區域を横むるは賢良なる法官の職務なり (同)

○事を知らざるを許す法を知らざるを罰さず (同)

○同一の道理は自から同一の法律を成ず (同)

○法律は人の能はざるを強迫せず (同)

○法律は事由の近因を問ひて其の遠因を問はず

(同)

○人を殘害せざるを主旨として法律を制定する

之を天意に應ずとす (同)

○法律より生ずるの條理は其の規則廢せらるれ

ば共に廢す (同)

○己れが誤言せしことは己れの損害すべき筈なり (同)

○己れの荒失に乗じて己れを利す可らず (同)

○其所業は以て其心術を指示すに足る (同)

○一事由を以て再び其の人を問ふ可らず（同）

○先づ来るものは先づ其の理を獲べし（同）

○土地の所有權は上天空に習すべし（同）

○地上に生ずる物は皆な其の地に屬すべし（同）

○各自の家屋は其人の城郭なり（同）

○他人の所有物を害せざる程に汝の所有物を處

理すべし（同）

○辨明は其の事の目的を破毀せしよりは寧ろ之

を成就せしむるを旨とすべし（同）

○言辭は關係者の思考を推考して之を構成せよ

之に反對すること勿れ（同）

○書面の文意は之を與ふる者の利益に反對して

解すべし（同）

○慥に行ひ得べきを以て慥なりと云ふ（同）

○一事物を明示する者は他の事物を含蓄せざる

なり（同）

- 文字を射るの人は樹皮を射るの人なり (同)
- 契約協議は法律を支配するに至る (同)
- 其利を得る者は其任を負ふべし (同)
- 同等の権理あるときは其力は現有者に多し (同)
- 詐偽は以て法理と爲すを得ず (同)
- 訟理は事由なきの契約に生ぜす (同)
- 批准は其の事の應するの権理あるを以て批准すれば前に令て之を行はしむるに比し (同)

○ 立志勉業

- 天は自ら助くる者を助くるなり (西諺)
- 余の功勞は敗れたれども余の志望は失はず (巴津西)

- 一策失すれば百譽を損す (西諺)
- 二兎を逐ふものは一兎をも得ず (同)
- 勉強と節儉は幸福の手足 (同)
- 閑暇は繁用より猶苦し (同)

○吾が倣し得べきことは人に任せず (同)

○難きことは今日倣せ明日も尙ほ易きに非ず (同)

○狙ひを定めずして矢を放つ勿れ (同)

○愚者と天堂に居らんより智者と獄中に坐する

に如かず (同)

○苦を以て樂とすれば成功身に随ふ (同)

○養ふ道を知りて後に妻を娶れ (同)

○賢者は終りに始め愚者は始めに終る (同)

○法律は其の權利に注意する人を助けて之れに
 懶眠する人を助けず (同)

○自由は一種の植物の如く憲法は其の園圃の如
 し (米士リーブル)

○今日歐洲の惡弊は漸く社會の爲めに自家を軋
 轍せられて一身の自由を社會に割與するに過
 るが如し (ホンボルト)

○人民の最も要として理會すべき所の者は決し

て人民を強て其の信ずる所の者を變せしむる
こと勿れ國王の權は人心天良の權に及ばず國
王の力は人心信仰の力に敵し難きものなり

(法國理學者費內倫)

○凡そ一國の君主國人を揀びて何の職を授けん
にも若し其の揀べる人より更に勝れて其の職
に當る者の國中に在らんには此國主は罪を上
帝に得又罪を閻國に得べし (基督默德經)

○今日の一時は明日の二時より尊し (同)

○延引は時間の賊

○出るときは做すべきことを思へ歸るときは做

たることを思へ (同)

○信任は成功の友 (同)

○人業を保てば業人を保つ (同)

○人の做す如く做せば必ず賞すべし (同)

○人をバ計すども已れを許す可らず (同)

○拙工は常に道具と争ふ (同)

○生業を勵むとも生業の奴隸となる可らず (同)

○成功は愚者をも賢者となす (同)

○爰に相反くが如くにして並び行かざる可らざる者あり即ち堅く人に倚頼するも堅く自己に倚頼するとの二事なり (詩人寫圖居士)

○徐々として行ものは久しけれども疲れずして遠きに行を得べし (西語)

○等待することを知るは事業を成就するの秘訣なり (アメイスター語)

○時日と忍耐とは桑葉をして細緞に變せしむ

(西語)

○予をして富人ならしめバ算學者となることは得ざりしならん (以國算術家、拉額爾日)

○許多の做す可きことあり之を勉め爲んと欲する人は必らず許多の光陰を尋出すべし (古語)

○功名の道理は才能の人の爲めに開く（同）

○人生は亘寒の地に行旅する者の如く寒氣愈々甚しき地に至れば行歩愈々速かにせざるを得ず（多克未爾）

○瑣少の事は全美の功を成し全美の功は瑣少の事に非ず（意國安日洛）

○我は吾が腦を以て調和せり（陶工、寫比、藥色）の調和を問れし答）

○予は泥土より吾が大將を作り出せり（拿破倫）

○汝は汝の劍の短きを歎せば汝の一步を加へて之を長くせよ（斯巴那丹軍士の語）

○神明が人を洞天福地に導くや其道路に勉強苦勞の關隘を置けり（古詩）

○工事を爲すや縱令極めて苦勞の業たるも中に無量の樂趣を充滿するに至りて自ら其の身を進修する所以の具なり（英士、休彌爾列爾）

○人一たび志を定め、後或ひは死すべく、或ひは成すべく決して中止す可らず（勃古斯敦）

○人は成敗得失を使命し、自己の意に従はしむるの權なり。然れども勉強して己ざるときは天より賞として成就の賜ものを享く（古言）

○人一志を以て萬事を爲得べし（古諺）

○天才を恃まず、人力を盡せ（斯遇爾斯）

○汝は何事にても、汝の手にて爲すべきことを看

出したらんには、汝の力を盡して之を爲せ

（敦勃古斯）

○困窮は創造の母なり（斯萬爾斯）

○君子其の當然の分を盡し、正徑の業を務むる者は皆な稱許を他人に求めずして、稱許を吾が本心に得んことを求む（同）

○我れは富饒の家に生れず、又勢力の家に生れず、又た門地に家に生れず。然ども余此世に在る上

は必らず一世の爲め明友の爲に裨益を爲すこと
は此の三者の福蔭に藉るものにも滅せざる
べし (英士大末)

○時辰は滅亡す而して人に托して其の債を貸は
しむ (阿斯福)

○我は不才無識の者なり而して其の進修の益を
受けたりしは特に零碎の光陰を慎みて用ひた
りしに由れり (以律休拔律的)

○徒らに思ふことなくして實に之を試みよ而
て久きに耐べし又た精細なるを要すべし
(日納爾)

○一事を始め追逐繼續するに因りて成功す (海雲)

○彼れ既に權力ある者をして其席より下らしめ
又側陋の者をして崇高の位に昇らしめたり
(聖路加)

○人能く自ら全幅の精神を以て一時に一事を勉

め倣さば其人は才性至鈍なりども一生の間に

大なる事業の成得べし (爾斯)

○人の志願は事業成就の先驅なり (同)

○何事にても汝が欲望する所の者は汝之を得べし人の志願の力は上帝に達して其の事として成就せざることをなし 雖然汝先づ謙退にして驕傲ならず忍耐にして浮躁ならず中庸にして過甚ならず寛弘にして偏曲ならざる人たらんを

勉むへし (神學者の言)

○職業は人をして貴からしむる能はず又人をして賤からしむる能はず只人こそ職業をして高からしめ又た卑からしむ可けれ (斯邁爾斯)

○汝は汝自から一身を立てる方法を造り出すべし汝等の餓死すると餓死せざるとは汝の自己發憤勉勵するに否らざるに關係するなり

(墨爾畔)

○多くの事業を爲すとの捷法は他なし即時に一事を爲すことなり（設爾西）

○若し事の成就せんことを望まば自から行て之を爲せ（古言）

○天下を動さんとする者は必らず先づ自から動くべし（瑣格刺底）

○起頭の一決斷こそ實に終身の勢力なれ（斯邁爾斯）

○勤勉は好造化の母なり（古諺）

○汗を出さざれば旨き物を得ず（同）

○天下は勉強忍耐なる人の所有なり（同）

○智見ありて勤敏なる人は進みて難事と戦ふ故に其の膽勇に由て之を征服す之に反し暗愚にして怠惰なる人は勞苦危険の光景を見て震慄退縮する故に其畏懼に由て不能の事を造り出すものなり（羅）

○自から難きに克て得たる者は決して離散せざ

るなり（斯邁爾斯）

○汝（なん）が光陰（くわういん）の空間（くうかん）あらば緊嚴（きんげん）なる職役（しやく）を以て之（これ）に充て（あ）汝（なん）の心思（しんし）身軀（しんたい）をして毫髮（ごうはつ）の間（あひだ）あらしむること勿（な）れ然（しか）らざれば淫慾（いんよく）の念（ねん）其（その）の虚（きよ）を窺（うかが）ひ潜（ひそ）かに其（その）の中（うち）に入るべし（泰洛爾）

○鐵（てつ）は熱（あつ）き中（うち）に之（これ）を打（う）つべし（西諺）

○鐵（てつ）を打（う）て熱（あつ）するに至（いた）らしむべし（斯邁爾斯）

○凡（およ）そ事（こと）始め（はじめ）に難（難）くして終（お）りに易（やす）からざるはな

し容易（ようい）は因難（いんなん）より生（しやう）ずる者（もの）なればなり（同）

○成就（じゆうじゆ）する所（ところ）の少（すく）なき所以（ゆゑ）は敢爲（かんぬ）の氣象（きしやう）の少（すく）きに由（よ）れり（同）

○正徑（せいけい）の希望（きぼう）は勢力（せかりよく）の伴侶（ばんりよ）にして成就（じゆうじゆ）の母（は）なり（同）

○吁（あや）我（われ）れ少年（せうねん）の時既（とき）に大（おほ）いに後來（こうらい）け資業（しげふ）を豫占（よせん）し生命（せいめい）は勢力（せいきりよく）を消散（せうさん）せり（佛國帥首ミラボー）

○人（ひと）として一（いつ）も失誤（しつご）の事（こと）を爲（な）さざる者（もの）は決（けつ）して一（いつ）

も發明はつめいすること非あらさるべし（斯邁爾斯）

○衆異しゅういを合あせて大同だいどうとなし民人みんじん各般かくはんの心こころを集あつめて邦國はうこく一跡いたいの公益こういとなす（同）

○勉強べんきやう勞苦らうくは獨り人ひとりの職分しやくぶんなるのみならず亦人またひとの消受しょうじうすべき福慶ふくけいなり（同）

○學藝がくげい習修しきしう

○有智ゆうち者は道理だうりに學まなび無智むち者は試驗しけんに學まなび痴愚ちぐは缺乏けつぱふに教おしへられ禽獸きんどうは天然てんねんに教おしへらる（西諺）

○鈍にぶき礪砥ざいしも刃物はものを鋭そとす（同）

○教おしへられざるよりは寧ろ生なまれざるに如ごとかず（同）

○學問がくもんは金庫きんこ習鍊しゆれんは錢かぜ（同）
（同）

○河かはに隨したがひて海うみに入いれ

○甲過かうあやまちて而しかして乙學おつまなふ（同）
（同）

○大食胃たいしよくいに充みれば學問がくもん腹はらに入いる（同）

○善良ぜんりやうなる新聞しんぶんには新聞しんぶんなし（同）

○無益むえきれ爭論きやうろんは勝かつに益えきなく負まけるに益えきあり（同）

○學まなびて鍊磨れんませざるは學まなばずして鍊磨れんまするに劣おとる
(同)

○今日こんにち思考しかうして明日あした語かたれ (同)

○不學ふがくは慢心まんしんより咎とが少すくなし (同)

○言辭げんごを發はつするは矢やを放はなつ如ごとくせよ (同)

○朝あさの一時ひとときは夕ゆふの二時ふたときに勝まさる (同)

○記臆きおくは思慮しりょの寶藏ほうざう (同)

○耳みみは大おほいなるべく名なは小せうなるべし (同)

○筈わだかまを儉約けんやくすれば小兒せうにを損そんす (同)

○燧石すゐせきも打うざれば火光くわくかうを發はつせず (同)

○師傳しでんの過嚴くわげんなるは其その子弟していだい自立りつの志こころざしを妨さげげ政せい

法の壓仰あつやくなるは人民じんみんの扶助かたすけを失うしなひ勢力せいりきに乏せし

からしむ (斯邁爾斯)

○自ら善よとするの心こころは學問がくもんの癡癡ちちなり (同)

○才氣さいきあるの人ひとも次第しだいなければ其才力そのさいりき四分よぶんの三

を失うしなふ (蒲豐)

- 余自ら平生を顧みるに何の所に在りても自己の愚昧に捻せられ錘打せらるゝことを覺ゆ
- 予の學問は特に海中の淺渚に在て螺蛤の類を拾ふのみ眞理の大海は浩々として涯際なし是れ皆な未だ檢査を経ざるものなり（牛董）
- 讀むこと愈多ければ愈吾が愚昧を覺ゆ愚昧を覺ゆる愈多ければ愈之れに勝んと欲して其の勢力愈増盛す（徳留）

- 一書を読み畢らざれば決して他書を読み起す可らず一書を読み畢るども其の意を領略せざれば又他書を思ふ可らず（勃克斯敦）

- 何事を學ぶにも必らず全幅の心力を用ふべし（同）

- 奇才の均からざるは幼より心思を用ふること習養するど否らざるどに在り（義地活士）
- 世界は大學校なり困苦は良師友なり

○學ばずして才智ある人あれども眞實有用の學は實事實物に就て熟觀審察するに依て應得らるゝなり (理學士培根)

○格言法語は人常に耳に慣れ口に誦することなれども困難痛楚の時に當り之を親試實驗するに非ざれば其の箴規は意味をば身に覺えぬとなり (彌爾)

○人は只亞伯西二十四字を知り得るを要す是よりして各自の欲する所に從がひ如何なる事も學び得らる可し (英土斯東)

○鈔錄は恰も商賈の本錢を簿記するが如し若し之れ莫りせば幾許の利を得たることも幾許の損を受たるとをも知らざるべし (翰他)

○吾が規則は事を始むる前に仔細に其の行はるべきや否やを思量することなり故に行なはる

可らざることは之を爲すことを試みず若し行
なはれんと思量する者あるときは縱令幾許の
辛酸を積むも之を成就せんことを期せり (同)
○如何なる物にても手善く心に應ずる時は大理
石に撰出し一體の如くにならしむるを得べし

(安日洛)

○談話する者種子を播き靜默する者稟實を収む
(維爾啓)

○心志の未だ方向なき時は特に恆久堅固剛毅な
るものゝみ故に其をして善事に向發すること
を要す蓋し肉肺の慾を受用する方に向ふときは
則ち惡魔にして其の才智は惡魔の腹藏たるべ
し義理の正しきに向ふときは心志は即ち君主
にして才智は其福祥を増益する宰臣となるな
り (勃格斯敦子を戒むる書)

○事務の中に生長せざる人は世界中最一劣なる

人なり (窩溫蒂爾僧)

○事務は人を造り成す (西諺)

○汝ち暫時留まれ然らば却りて早く結局を見るべし (古言)

○光陰の重んずべきを知る時は定期を愆らざるの習ひ 自から生じ来るべし (斯邁爾斯)

○自から私慾に克ち淡薄を以て己れを奉ずることを教ふるの説は縦令極悪なりとも之を教へ

ざる最善の説に愈れり

○勞作は身軀を教養し學習は心靈を教養す (斯邁爾斯)

○第一に目的あるを要す此の事を研究せんと目的を定めて然る後に書を読むときは吾心と書中の意と相投合することとなり第二に吾力に應えたる定規を立つるを要す如斯せば學習の事秩序あるを得べし (同)

○人若し家中に本銀を多く貯ふとも出行くとき囊中に一錢をも帶されば用に應ず可らず故に學問の通用銀を其身に

帶おびび費用けいようの事ことあらば之これと交換かうかんすべし (同)

○教導けうたうの過多くわたなると拘束こうそくの過多くわたなるとは少年せうねん自みづから助たすくる志氣しきの妨礙ばうがいとなると恰あたかも氷こおりに泳およぎ能あたはざる人ひとの手臂てくみを束縛そくばくする膀胱ぼうくわうの如ごとく其それをして愈々いよいよ自みづから泳およぐこと能あたはざらしむ (同)

○小成せうせいに安やすんずるの學生がくせいは學業がくぎふを學習がくしふするに非あらずして畢竟ひつぎやう之これを遊戲いうぎに付かするのみ (同)

○一時いとおとに讀書どくしふれ散漫さんまんなるは懶惰らんだの中うちの最も甚きつどしき者ものなり

人ひとをして勢力せきりよくを失うしなはれむること之これより甚はただしきはなし

(羅伯遜)

○鈍さびて磨くさるより磨すりて耗へうすを善よとす (堪伯蘭)

○世よの人學問ひがもんは才能さいのうなりとの説いを多おほく引ひけども善よく之これを導みかき助たすくるの主宰しゅさいなからしめば學問がくもんは狂肆きやうしなり暴威ばうゐなり驕けう慢まんなりと云いふも當然たうぜんなるべしと覺おぼゆ (斯邁蘭斯)

○學問がくもんの爲ために便利べんりを極きくめたることは自みづから修をさむる人ひとの助たすけどもなり又障礙またしやうがいどもなれり如何いかにとなれば今人いまひとの學問がくもんを

爲すは古人に比すれば幾干か便利なるべけれど智識了悟に至りては古人の踏みたる大道を行旅するより外ある可らず即ち觀察經驗忍耐勉強の大道を離れて別に簡易直捷の徑路あることなし (同)

○徒らに書を讀むは一啜の酒を急に飲むが如し一時は之れが爲めに鼓動せらるゝと雖も心靈を修養し品行を建造するの實益は毫毛も無きとなり (同)

○書冊より得たる經驗は總て學問に屬し實事より得たる經

驗は智識に屬す少數の智識にても多數の學問に勝ることなし (同)

○人の斯の世に生ずる必らず吾が善き光を以て吾が生を作り成し吾が善き思想を以て吾行爲を造り出すべし (同)

○機械學にて最も要用にして而も缺乏せるものは失敗せしを記せし記録なり (瓦德)

○兒童は眼目を以て智識の門戸とす (斯邁爾斯)

○舊書を温するは新書を讀むに九倍の益あり (達德禮)

○汝ち金袍を掣くべし然らば汝ち其の一袖を得ん (蘇諺)

○野蠻の民に宗教を布かんとするは恰も荒蕪の地に種子を蒔くが如し決して其結葉を見るべからず (ボツクル)

○自由の精神を培養せんと欲せば先づ法學の原因を知るを要す (古言)

○學問は心志の眼 (陸)

○人を教へて己れに學べ 同

○智行徳義

○一功能く萬論を伏す (西諺)

○一斤の善行は十斤の學問に勝る 同

○智識は日新進動の活物なり道徳は萬世不易の定則なり道

徳の善惡は智識の開否に伴ふなり (ボツクル)

○官は人を求むべし人は官を求む可らず (米諺)

○一友に愛を過せば十友を失なふ (西諺)

○一年善ならざれば七年の憂ひを招く 同

○一智能く百勇に勝つ 同

○始めに笑はんより終りに笑むに如かず (同)

○伊太利人は金つるに賢く獨乙人は行ふに賢く佛蘭西人は

保つに賢し (同)

○萬人の友どなれば萬人友どせず (同)

○朋友の樂みには晚く行き悲みには速く行け (同)

○徳は行ひに在りて舌頭に住せず (同)

○忠臣館く仁君を作る (同)

○温順は愛敬の母 (同)

○神鷹は窮鳥を獲らず (同)

○我れ人を敬すれば人亦た我れを敬す (同)

○我れ一たび人に欺かるれば我れ人に耻ぢ再び欺かるれば

人我れに耻づ (同)

○賢く罵らんより愚に黙するに如かず (同)

○善き珊瑚は着色を要せず (同)

○用ある鍵は常に光澤あり (同)

○高く賣るども欺むく可らず (同)

- 互ひに道理を知りて始めて和睦の花開く (同)
- 祖先となる人は放鷹田獵に譽れを得ず (同)
- 拙なく行なふは巧みに言ふに勝る (同)
- 運を味はひて始めて己れを知る (同)
- 己れを許さんより先づ人を許るせ (同)
- 歡樂は若き時より己れが過失を知るものに在り (同)
- 口と財布は開るに利あり (同)
- 寡言に過るは愚に似て賢に近し (同)

- 寡言は智を示し朋友を増す (同)
- 愚者の心は口中に在り賢者の口は心中に在り (同)
- 和かなる言語は口を傷めず (同)
- 賢者は愚者に禮を盡くす (同)
- 賢妻は戸外に出ざること敗壞の如し (同)
- 功能有る丸薬には金箔を要せず (同)
- 賢者は法律を廢するも行狀を革めず (同)
- 故郷の尊敬は名に在り他國の尊敬は衣服に在り (同)

○後悔せざるもの樂みを知る (同)

○遊んで人を害せず戯れて人を辱しめず (同)

○才徳ある婦人は美ならずと雖も家を飾るに足るなり (同)

○金銀は汚れて來るも尙ほ人に厚く待さる (同)

○壯健ならざれば愈快なく徳行ならざれば幸福なし (同)

○清淨なる手には石鹼を要せず (同)

○名譽と利益は一壺に貯はへ難し (同)

○名譽は徳行の給金 (同)

○身を起して身を倒さんより寧ろ閑かに坐するに如かず (同)

○親友は少く持ち相識は多く持て (同)

○失禮なる承諾は禮ある違背に劣る (同)

○緘口は伶俐を人に示す (同)

○臣僕の善惡は君主不在の時に知らる (同)

○新譽を得れば舊弊を改たむ (同)

○美名は暗中も尙ほ光輝あり (同)

○人を教へて已れに學ぶ (同)

○美服繡装も失儀を隠さず (一同)

○仁志あれば便宜あり (一同)

○心思高操なる婦人は其良人の品行をして自から貴からしめ性質卑劣なる婦人は必らず其良人をして化して賤しからしむ (多克未爾)

○人朋友社會の内に在て温和恭順なるは恰かも光輝の聲なくして百物に各様の色を與ふる如く其の徐々として他人を感移すること高聲の言語及び強猛の力に愈れること

遠し極小なる金枝蘭を見ずや春風和を扇々時に當り土塊を擡げ破りて萌芽を發せり温和柔順の大勢あること之を以て譬となすべし (斯邁爾斯)

○心志の力は人の品行の中心力 (一同)

○遠所に大光輝を發するものあり假令汝ち之を捕へ得ずとも再び又之を試むべし蓋し善徳は難事を爭奪する中に在て利慾に汲々たる内には非ざるなり (彌爾尼士の詩)

○仁愛なきの勢力は邦國の衰運を促がし德行なきの智識は

邦國の禍基を崇うす〔斯邁爾斯〕

○端正信實の最善の處法なり〔西諺〕

○貴重物は即ち和平安靜なる心なり〔同〕

○人の常に信義を守り他人に委任せらるゝ者は身を降して世間の聲名利財を求むることなし然れども聲名利財時雨の降るが如く必らず其人の頭上に集まり落ることなり〔富圖富士の詩〕

○定期を爽へさるとは國王の禮儀なり〔十四世路易〕

○人の性徳の美なる者は即ち寛大、忠厚、信儀、清廉、儉用、の類にして預じめ後日の慮ある遠識と云ふが如きは皆金錢を當然に使用することの上に顯れざるはなし〔斯邁爾斯〕

○若し人各々自から已れを改化することに着意せんには何べくか容易に一國をも改化するとを得べし〔西詩〕

○自から其身を恭敬せざる者は他人より恭敬を受けること能はず〔斯邁爾斯〕

○寛大の量ありて仁惠を好むは處事接物の善術なり〔同〕

○修徳の器械は善き習慣の中央を通行して之を攜帶すべし
如斯して而して内にある大道理を防護し耗損せしむるを
と勿れ（古言）

○明哲の人たらんことを求むべし智慧は金銀よりも慕ふべ
く寶玉よりも貴とく天下の物殆んど之れに比擬すべきな
し（所羅門）

○正徑の職業を有つ人は卑賤を愧ること勿れ有たざる人こ
そ慙べけれ（富爾拉）

○人の志向は自から知るの良心に原づき品行を砥礪し極善
に至らしむるに在り（斯邁爾斯）

○異成の利達は鉅萬の富を致し極高の位に升り極大の權を
操り浮生の歡樂を極め塵世の聲名を得るが如きに非ずし
て聰明の識、大公の心徳善の行ひあるに在り（同）

○社會に貴重せられ議論の首帥となるべきは仁善の心眞實
の行ひ經駟の學識ある人にあらざれば得ず（同）

○自から恭敬することは人の着る最貴の衣服なり其の心思

を感移して高尚ならしむる者なり (同)

○仁人智士は時としては世を憤はり世を憂ふることあり然れども世に向ひて自己の不平を懐ける者に非ざる其の地位に随がひ當然の職分を盡すことを以て心に厭足するなり (羅伯掃論)

○其の道に非ずして崇高の位地を得るは愈々其人の穢行をして世に顯はれしむ (加蘭)

○童子の優劣あるは才能に由ること少く勢力に由ること

多し (亞瑞爾德)

○今生に於て凡そ人の行爲は後事相繫属する長久の鍵の端首とならざるもの無し其長久なる末梢の光景は肉眼の能く達し得る所に非ず (托馬士阿弗、馬爾墨士拔禮)

○慈悲喜捨は家より始む (西諺)

○世に二種の人あり其の一は黙して他人を教化する人、其一は黙して他人に教化せらるゝ人、他人を教化する人より貴ときは無く酬銀なき教化を他人より受くる人より賤

きはなし (斯邁爾斯)

○人の品價は常に其の朋友の品價優等なる者に管治せらる

(格林烏德)

○言行録は大人君子の生血なり (彌爾敦)

○人の斯の世に在る眞正の權勢と稱すべき者は品行なり

(斯邁爾斯)

○德善の勢力は身軀の勢力に十倍す (拿破倫)

○我れ進み行くべき道路は品行に由て勢位に進むべきのみ

(若爾日第三世)

○智識は勢力なり (西諺)

○品行は勢力なり (斯邁爾斯)

○少年の高きに仰がざる者は必らず卑きに俯す而して精神意氣の天に冲飛せざる者は必らず地に匍匐す (埜士禮立)

○汝の容止を卑くし汝の志謀を高くせよ然らば汝が謙虚にして大量あるの人と爲るべし汝の精神意氣を低沈せしむること勿れ蓋し奮闘を目的として箭を射る者は一樹を正

鵠こくとする者ものに比ひすれば遙はるかに高く戻るべし

(若爾日、花伯的、の詩)

○言行一致げんこういちし内外間ちないごわいへぶて無なきは品行びんこうの眞實しんじつなる本質ほんしつなり

(斯邁爾斯)

○汝なんち凡すべて外貌ぐわいぼうに顯あらはさんと欲ぼつする者ものは常つねに必かならず中心おなうしんの誠まことより出いづ可べきを務つとむべし

(沙伯の常に誦せる古言)

○一錢せんを費つひやさずして萬事ばんざを買か得うべきものは禮貌れいぼうなり

(孟梯額)

○君子くんしは正直せいちよくにして義ぎを行なひ心中しんちゅうの實じつを以もつて言語げんごに發はつす

(古詩)

○容貌辭氣ようぼうそきは德行とくかうの華采けいさいなり (斯邁爾斯)

○志氣心力しきしんりよく

○難がたきことは希望きぼうの基もと (西詩)

○夜間やかんは思慮しりょの母は (同)

○膽略たんりよくと決心けつしんは積德せきとくの精神せいしん (同)

○常に畏懼つねにおそせんよりは一たび危險きけんを過すぐるに如しかず (同)

○無情の水も蒸氣と爲せば能く千斤の鼎を打ぐ (同)

○天の賜物は決して嫌はざれ (同)

○災害は蹙略の試金石 (同)

○爭論は一方の堪忍に終る (同)

○晝には眼あり夜には耳あり (同)

○人敵なき時は幸福其の人を忘る (同)

○人宜く天に克つべし而して宜く天に従ふべし (彌爾)

○眞正の剛勇は眞正の溫柔と必らず相隨ふ (斯邁爾斯)

○人生の戦闘は多くは嶮岨なる處に於て而して戦はずして勝利を得るは得ると雖ども榮名ある可らず (同)

○横逆損亡は甚はだ嚴酷なる教訓なりと雖ども才智は此に在り汝才智を此に得らるべし汝才智を他に求むるども得らる可らず (培尼斯の詩)

○横過は人を天に導くの階梯なり (古語)

○我に敵する者は我を輔くる者なり (培克)

○勞苦は百事に勝つ (法言)

○眞正しんせいの榮威えいゐは暗地あんちに自おのから己おのれに克かつよりして發生はつせいす此
の工夫くふうなくして縱令たゞひてはこく敵國ていこくを征せいし凱勝がいしょうを得うるも錙銖いしゆに直あたら
ず特ことに私慾しよくの奴隸ぬれいたるのみ〔古言〕
○勞苦らうくなければ希望きぼうなし故ゆゑに人の憂愁いうしうの心こゝろは勞苦らうくして爲なす
可べきこと無なきより甚はなはだしきはなし〔斯邁爾斯〕
○我われれ世よの律法りつぽうを學まなぶ者ものに見棄みすてられたり然されバ我われれは吾
が自己おのこの力ちからに倚よりて此訟案このしやうあんを防さへがざるを得えず
〔沙伯黑奴買賣くふんにばいを禁きんせんとて賣奴ばいどを救助きうすけする爲ため訴訟しよとう

を起おこし法官はふくわんに斥しりぞけられし時憤嘆ときふんたんせし語ことば〕

○到處いたるどころ豈いかで我われれを妨さまたぐる亞耳伯士山あゐすざんあらんや〔拿破倫〕

○予像神われざうしんを信しんせず又鬼魔またまを信しんせず只ただ全く吾われが心思しんしの力ちからと身
軀たいの力ちからとに依賴いらいす〔北諺〕

○剛毅かうぎの力ちからは穎敏はいみんの才さいに比ひすれば其そのの人ひとを成就じやうじゆすること多
きに居ゐる〔斯邁爾斯〕

○大人たいじんと小人せうじんとの別べつは特とくに剛毅かうぎと剛毅かうぎならざるに在あり
〔勃古斯敦〕

希望は吾が勢力なり（英國、バットルアツヘイ）古歴の銘

○予方法を覚め得ずとも方法を造り出すべし（北諺）

○此難事何ぞ吾れに害あらん特に吾か足をして愈々深く地中に挿入せしむるのみ（那比爾）

○眞正の才智は剛毅の志向なり（拿破倫）

○不能の二字は愚人の字書に在るのみ（同）

○人の英才は偶然一方に向きたる一大勢力の心なり（戎孫）

○小兒は何の用も倣すまじ然れども後には大人と成るなり

（弗蘭克林）

○時日と剛忍とは桑葉をして絨緞に變せしむ（古諺）

○英才とは常人の憤發切至なるものを云ふなり（同）

○英才は心火の光輝を發する力なり（戎、福士他）

○余の功勞は敗れたれども余の志望は失なはざるなり

（巴律西）

○貧苦に過はざるは人の不幸なり（斯邁爾斯）

○性情習俗

○一痴は百愚を生ず〔西諺〕

○本心は決斷の主宰〔同〕

○犬の主人を見て尾を揺すは主人より肉を愛すればなり〔同〕

○音物に交はる友は買ふに易し〔同〕

○弊は防々に易けれども改むるに難し〔同〕

○貪欲は衣食と尊敬に乏し〔同〕

○貪欲の人を富すより富は人を貪欲す〔同〕

○妬む心は人を狙ふて已れを害す〔同〕

○島國に殖民すれば是班牙人先づ寺觀を建て佛良西人は城堡を築き和蘭人は商店をつくり英吉利人は麥酒を醸す〔同〕

○智者の如く語る者は愚者の如く行なふ〔同〕

○池水の如く黙する人は底深し〔同〕

○婦女は座即に才ありて遠謀に智なし〔同〕

○鳥兒は行水すれども竟に白きこと能はず〔同〕

○悲みの一時は樂みの一日より長し〔同〕

○貸主は借主より記憶よし〔同〕

○硝子の家に住する者は石を投ぜず (同)

○傲慢なる人は人の譽を以て己れが耻とす (同)

○大貧と大富は道理に疎し (同)

○常に愚ならざる人も時としては賢ならず (同)

○常に飲む者は常に渴す (同)

○雷鳴する時は悪人も善に志さずへし (同)

○無智なる美人は造作なき華屋の如し (同)

○飢たる人は尙ほ怒れる人の如し (同)

○愚なる羊は豺狼に其の身を啖はす (同)

○大いなる惡みは大なる愛より来る (同)

○寡言は婦人の美飾 (同)

○愚者尙ほ能く賢者の過失を知る (同)

○曲れる杖には曲れる影あり (同)

○深き河江は流るゝに聲なく淺きは却つて噪がし (同)

○金剛石は糞土に汚すも猶尊とし (同)

○黒色は再び他色に染む可らず (同)

- 古枝は折れ易く新枝は弱め易し (同)
- 惡虐の人と雖ども惡虐の子を好まず (同)
- 豺狼と交れバ哮叫を學ぶ (同)
- 狂態のみにては強ち狂人と見做し難し (同)
- 極美の花は却つて馨しからず (同)
- 嫉妬の角は眼中に生ず (同)
- 人心は狡猾なり故に能く己れを欺む (同)
- 人にして道理なきは道理ある獸に劣る (同)

- 真正の美貌には粉黛を要せず (同)
- 美なる羽毛は其の鳥をして美ならしむ (同)
- 人常に快樂の心を失ふ可らず蓋し快樂の心ば道を做すに絶好の本資なり (斯邁爾斯)
- 脊髄の神經は其職分に二あり二箇の根に由て發せり心志は其一根より傳送し感覺は其一根より傳送す (白爾)
- 流俗の勢焰に焚燒せらるる者は人以上に非ざれば人以下なり (彼廼英人)

○懶惰なる頭腦は魔鬼の工場なり (古諺)

○彼れ自から其の自から知るの良心を欺むく (教長、拉的馬)

○人の性行の悪なる者即ち貪吝、欺瞞、暴虐、私欲の類は皆

な金錢を好むの度なきより發見し又た奢侈、備屢無しと云

ふ如き惡行は金錢を使用する度なきに顯はる (斯邁爾斯)

○飲酒は最も高次の事業を妨たぐるのみならず儉節を妨た

げ禮義を賊ない身軀を傷り老實の生計を妨たぐるなり故

に少年の人若し節飲する能はずんば寧ろ禁戒して飲まざ

れ (同)

○歡樂を適宜に做すは身軀を健康にするの道なり然れども

過度に之れを做すときは必らず心を感はし性を移すが如

き大害を來すべし (同)

○假造の談話を聞くは哀憐の情は生ず可けれど哀憐の行ひ

を習はすことは能はず故に之を聞く毎に次第に感動する

こと薄くなりて竟には頑然無情に至るべし (拔的拉)

○人身は縊殺せらるべし行狀は縊殺せらる可らず蓋し人其

自から知るの良心の中に滅亡す可らざる性命を有せり

(義律)

○憂愁の人となりて鉅萬の財を擁せんより快樂の性質を具ふる人とならんことを望ましけれ (休母)

○人は習慣の一塊肉にして習慣は第二の天性なり (古言)

○人間萬事習慣に由らざるなし (伯勞塞)

○習慣は璉珞の頸の飾なり一たび其の結頭(習慣の始めを指す)を解けば群珠(品行を指す)皆な糸を失なふべし

(俄國學士の言)

○道理は習慣する者の呼稱にして習慣は道理の實事に行なはるゝ者(斯達爾斯)

○龔齒を除却するは齒牙を挫拔より痛劇にして爲し難きのことなり (同)

○嗟乎吾れに示すに國風の詞賦を以てせよ吾れは法律の誰手に成るを問はざるなり(孟的斯鳩、佛國文風の本色を失なひ人心を感動せしむるに足らざるを嘆息せし詞)

○財政儉審

○負債は勤儉の鋒刃を鈍却する者なり（吾克執畢）

○入れざる財寶より出すべきもの無し（西諺）

○一斤の商業は一斤の黄金（同）

○一回の費を思はんより一銭の費を量れ（同）

○庖厨を小さくすれば家産を大いにす（同）

○富を得れば才智と健康とを失なふ（同）

○富は富の用を知らず反つて富を妄用す（同）

○富なる者は賢者を助け愚者を使役す（同）

○利子を得んより利子を拂ふ勿れ（同）

○家産をば之れを君とすべし之れを臣とする勿れ（同）

○善く儉にして善く費やせ（同）

○大富は足ることを知るに在り（同）

○足らざるは尙ほ餘るに愈る（同）

○廉價を好む者は常に惡き肉を買ふ（同）

○損を蒙る大いならざる者は益を得る亦小なり（同）

○負債の返却は危險の消却なり (同)

○朝餐を奢侈と共にするれば午餐を貧困と共にし夜餐は汚名と共にすべし (同)

○財餘り有れば友亦乏しからず (同)

○財を蓄へて徳を積ざる者は金を背負る驢馬の藟草を食ふが如し (同)

○財は菜圃の肥土の如し散さざれば功なし (同)

○廣金の爲めに起んよりは費さずして瘠るに如かず (同)

○商法は蓄財の母なり (同)

○仁恵の一銭は法律上の十銭に勝る (同)

○少壯の時節儉して老年の時遊ふべし (同)

○肥瘠は瘦産の基 (同)

○他人の財にて満ちたる囊は空しきに異ならず (同)

○小債を拂ふて大信を得よ (同)

○身貧しく心富る人は一物を有たずして萬物を有てり身富み心貧しき人は萬物を有てども一物を有たず (斯邁爾斯)

○吾が富は吾が産業の大いなるに在らずして吾が常用の小なるに在り(伯洛沙敦)

○我れに貧を與へ賜はされ我れに富を與へ賜はされ只應はくは適當なる食糧を與へ賜はれ(古言)

○富榮の光輝は適々其人品の卑劣なるを顯はすに足ること
恰かも螢火の光蛇蟻を照して其醜形を露はすに似たり

(斯邁爾斯)

○邊尼は人の靈魂を殺し白刃は人の肉體を殺す二の者相較

ふれバ邊尼の人を殺すこと多し(斯格的)

○窮鬼の到るは旅客よりも速かに武士よりも迅し(所羅門)

○工業を怠たる者は財貨を濫用する人の兄弟なり(同)

○負債を生せんより寧ろに餐を喰わずして寐よ(古諺)

○邊尼を謹むべし然るときは制度必らず自から整理すべし

(同)

○債欠は自主の人を化して必らず奴隷とする者なり(克林登)

○儉約は安靜の基礎なるのみならず又仁恵の根源なり(戎孫)

○金を借りに行くものは憂を取りに行く者なり（古言）

○欺偽は借債の背上に騎る（同）

○勒儉に非ざる人は其の身を保ち能はず他人より損害を受けるに非ずして己れの身即ち己れを壊るの仇敵たり

（斯邁爾斯）

○節儉の要道は小々の利に意を注がんより小々の費へを省くに若かず（培根）

○節儉は家事を治むる精神なり（斯邁爾斯）

○節儉は豫しめ備ふる思慮の女子、中和の徳の姉妹自主の理の母と稱すべし、約して之を言へば即ち自助の形状の發見する所なり（同）

○天下の人多しと雖とも古今只二種のみ即ち貨財を存留する人、貨財を費用する人なり、貨財を存留する人は常に世道の開化を助け人生の祝福を實くる所以の具を造成し、貨財を費用する人は常に此の儉勤なる人に役使せらるる蓋し天地自然の律法即ち天道の報應然るなり（格伯田）

○人の金銭に於ける當然の道あり善く之を酌量審裁し其の道に合ふ者を成人と稱すべし(顯理、泰路爾)

○金銭のとを決して輕忽に處辨する勿れ金銭は品行なり

(律敦)

○錢財を護み用ふることは之を樹籬の中に藏匿せんが爲めならず又我れに服事する人の爲めならず只自主自立の光榮の權を保存せんが爲めなり(培尼斯の詩)

○熱心に富を欲する人は其心に足れりと爲さる中に貧人たるを免かれず(安日洛)

○勢機軍事

○敗れたる轉瞬の間勝つべき轉瞬の機會あり(拿破倫)

○兩軍相戦かん時は互ひに敵を驚惶せしむることを務むるなり故に我軍にて忽然驚惶することの起りなば敵に破らるゝ時と知るべし(同)

○機會を看出し得されば機會を造り出すを得べし(斯邁爾斯)

○戦争には平時のことを爲し平時には戦争のことを爲す

- 家に坐して戰場をバ鎮じ易し (西陸)
- 計策は密なるべく心は明らかなるべし (同)
- 兵卒の血は將帥の榮 (同)
- 時のある時に時を得よ (同)
- 賔略ある敵は臆病なる友に愈る (同)
- 賔略あるものは刀杖を依頼せず (同)
- 詐僞の和睦は公然の戦闘より危ふし (同)

- 野鼠蛙と争へば鳶即ちち之を狙ふ (同)
- 威望なき大將は羽翼なき鳥に齊し (同)
- 後れを取らざる者は愚者と争そはす (同)
- 舊き敵と新しき味方は頼み難し (同)
- 事起らんとする時は其影必らず前に在り (同)
- 敵なき城堡は守るに易し (同)
- 酒に勇む兵士は戰場に臆す (同)
- 信切は鬪争に必勝の利器 (同)

○三軍の將は靈變の智あるべく人を知るの明有るべし

(斯邁爾斯)

○將帥の其の人に非ずして細務の治辨せざるは軍衆の風俗を壞るに足る (密林登)

○悼しい哉吾輩將帥誰人を論せず苟くも一事すらなすと無ればこれが爲めに殺さるべし (斯比諾拉)

○軍官と雖ども只戦闘を能するのみにては足れりと云ふべからず見ずや犬の猛き者も亦能闘かふに非ずや (那比爾)

○汝ち諸兵士人間の歴史は過半軍隊の歴史なり國家の腐敗は軍隊の成敗に關せり軍隊の一敗は全國の騷亂となり衰亡となる軍隊の一勝は國勢を振ひ國光を増す故に國民は兵士と共に戰功の碑標を崇どふは神明に於るが如し

(路易、那暴倫、兵士響應の席に演舌せる語)

○雜

○直なる杖も水中に曲りて見ゆ (古語)

○酔友は酒宴にのみ信あり (同)

○睡眠を好まば倒産の臥床を買へ (同)

○船舶を見ずして船貨を見よ (同)

○小孔は水を洩らして大船を沈む (同)

○小狗野兎を追ひて大犬に獲らる (同)

○物比較せざれば善惡なし (同)

○舌頭の嚙は終身の寶器 (同)

○雲雀の片股は一羽の鶯に勝る (同)

○人は矯して友を試む (同)

○貧窮は壯健の母なり (同)

○東に近きものは西に遠し (同)

○遠方より照らす日に近づけば己れを焼く (同)

○信を失なふものは世に在りても尙ほ死したる者の如し (同)

○食物は遺味に依りて酸甘の名を受く (同)

○證書は請はずして捺印す可らず酒糟は見ずして飲む可らず (同)

ず (同)

○書翰は能く讀てから封玄水液は能く見てから飲め (同)

○親友は親戚より價直猶ほ貴とし(同)

○臣僕に給せざれば臣僕目から之を給す(同)

○右の手は左の手を洗ひ左右は面を洗ふ(同)

○自から過まらて其の渾命を罵る(同)

○蜜を舐るには小指を以てせよ(同)

○眼に外物は看ゆれども眼に眼は看ず(同)

○遊女の涙と輕卒なる指ひは同玄器に盛れ(同)

○狐は極めて狡猾なれども尙ほ狡猾なる人に捕はる(同)

○希望する事は欺むかれ易し(同)

○狂人の手に白刃を渡すな(同)

○極めて清潔なる者汚るれば極めて穢なし(同)

○饑渴は人を害すること少なく大食と暴飲は能く人を殺す

(同)

○才ありて智なき者は人の肉を調理して己れの指を切る(同)

○最上の金屬は鐵、最上の植物は米、最上の動物は人(同)

○災害は帝王にも諂らばず(同)

- 妻女の異見は先を探るべく後を拾つべし〔同〕
- 歳末に至らずして年の豊凶を論ずること勿れ〔同〕
- 暗中の百猫は皆な一ど色に見ゆ〔同〕
- 惡き新聞は走ること極めて速かなり〔同〕
- 八蝶を取るには小銃を要せず〔同〕
- 溺るゝ人を救ひて自から溺るゝこと勿れ〔同〕
- 嘲弄を好むものは才ありど雖ども智なし〔同〕
- 船には水より火を懼る〔同〕

- 墳墓は貴賤の會館〔同〕
- 不運の膽略は人を害す〔同〕
- 不正なる誓ひは守るより破るに如かず〔同〕
- 潔白なる衣には汚れも著るし〔同〕
- 盲人に金剛石は小砂の如し〔同〕
- 妄説には足なく誹謗に翼を備ふ〔同〕
- 疾病は遊蕩の租税〔同〕
- 病ひの幸福を損するは王者と臣民の別なし〔同〕

- 黒き鶏も尙ほ白き卵子を産す〔同〕
- 熊は尾を附するも獅子とならず〔同〕
- 口に蜜ある蟲は尻に刺あり〔同〕
- 愚者の心意は居上に踊る〔同〕
- 同じ人に再び欺むかるゝは吾が過ちなり〔同〕
- 吾が升を以て人の麥の量らず〔同〕
- 愚なる雉子は酺宴に鷹を招く〔同〕
- 能辨は決して智者の證ならず〔同〕

- 打たれて笑ふものは再び打たれず〔同〕
- 蠟燭は兩端より點火すこと莫れ〔同〕
- 蠟燭は吾身を耗して他を照らす〔同〕
- 老犬は故なきに吠えず〔同〕
- 倣し得る丈け倣すなかれ持得る丈け費す勿れ
- 聞たる丈け信する勿れ知れる丈語る勿かれ〔同〕
- 詐欺ある友は公然の敵より害あり〔同〕
- 庖人多くして羹汁の味を損なふ〔同〕

○樽を見て酒の善惡を言ふ勿れ (同)

○鶏卵を割るに斧を要せず (同)

○談話を聞く者には實事を語るな (同)

○他人の魚鱗となる勿れ他人の肉となる勿れ (同)

○容易に友を失なはんと欲せば金を貸すに如かず (同)

○幸福は車輪の如し高きに来ると思へば早く己に低きに廻る (同)

○諫言を防ぐ柵は惡行の道標 (同)

○風に向ひて塵を拂ふこと莫れ (同)

○能く吠る犬は必らず噛まず (同)

○奸淫一たび犯せば一生の淫婦となる (同)

○甘言する者は友に非ず (同)

○噛得ざるものには齒牙を見する勿れ (同)

○涉らずして淺瀬を侮る勿れ (同)

○壯駒に騎らば鞍と腹帯に注意せよ (同)

○夫の賢愚は妻を見て知れ (同)

○盗人ぬすびとを捕とらふるに盗人ぬすびとを用もちふ(同)

○吾わが舌した以もつて吾わが喉のどを切きる勿なれ(同)

○量過りやうするときは布囊ふのうを割きく(同)

○禽どりを威嚇おどするは禽どりを捕とらふる爲ために非あず(同)

○細ほそき木きは火ひに燃もゆ太ふき木きは火ひを感かず(同)

○繁昌はんちやうは友ともを生うまふ衰微すいゐは友ともを誑きやうむ(同)

○蓄德しやくとくの絶美せつゐなるも尙なほ刺さなきを得はず(同)

○春はるに花はななきもの秋あきに菓實くわいじつなし(同)

○萬物ばんぶつを照てる太陽たいやう尙なほ面おもてに黒點くろくちんあり(同)

○箱さうかん函つくりの造方ぞうほう粗惡そあくなれバ膠漆けうしつも功こうなし(同)

○速すみやかに熟たのくする菓實くわいじつは腐敗ふはいも亦速またすみやかなり(同)

○一片へんの浮雲かうんも太陽たいやうを掩おほふに足たる(同)

○市いちに愚者ぐやなけれバ惡貨あくくわ售うれず(同)

○家いえに豺狼さいらうを飼かはバ食物しよくもつに飽あかすべし(同)

○一桃いちとう腐敗ふはいして百桃ひやくとうを損そんず(同)

○活犬くわつけんは死獅ししに勝まさる(同)

○一滴多きに過ぐれば酒は盃の外に溢る (同)

○張りつめたる弓は竟に弱し (同)

○破損せる船舶には順風なし (同)

○羽織は衣服に合せて之を裁て (同)

○凶日は失なひじ日なり即ち忌く費やせし日なり一分毫

も光陰を失なへば懊恨に堪へず (多克米爾)

○彼れは樹林れ中に行けども燕を見ず (北諺)

○常に獲利の多少を謀る者は決して大事を成就する能はず

(同)

○彼れ此れを殺すに非ざれば此れ必らず彼れを殺さんのみ

(維多爾休哥、劍と筆とを咏せし詞)

○世人に怪しまるゝ教派は一世に語さるゝ者に比ぶれば活

潑の精神を存せり (彌爾)

○論敵死して學者早く己に睡眠を初む (同)

○敢て事功を増任せざる者は凶禍失敗を恐るゝの念太甚し

くして竟に大勳績を奏すること能はず (門的勞士)

○人生時々刻々の中吾が心自己に主となる者あるを要す

(斯邁爾斯)

○薄命は愚蠢に次げる門戸なり (俄諺)

○人縱令才徳あり善行ありと雖ども常に粗漏賒略なる時は

必らず人に信ぜられず且つ其の爲る所の事として一度に

て完備する能はず重ねて又始めより改め儉さざるを得ず

如此一生の煩擾混闘するのみにて終に一事を成就し能

はざるなり (斯邁爾斯)

○順便の方法は笈箱或は包袋の裡に貨物を満すに似たり善

く満すものは拙なき者の一倍を裝入すべし 設西蘭)

○事務は譬へば軍行の如し若し前隊の兵俄かに阻礙せらる

ると有りて軍行の常度を變えなば後陣はまた必らず混亂

すべし (斯格的)

○後來の準備をなし今の用度を節にし善良の規制を立るの

三つの者は不幸なる時運を修治する絶枝の工匠なり

(撒每耳、德留)

○人生の失敗は其の一半は馬の自から跑行く者を妄りに控引するが如き事に由て起る（古言）

○我れば吾か身の中に朋友を得たり（同）

○我れ朋友なし有れば必らず好朋友（義地活士）

○偉丈夫の力を有つは甚だ好し然るに偉丈夫の如くに力を用ふるときは暴虐となるなり（古語）

○食ふべき骨あらば犬何ぞ人を咬ん（拿破倫少壯の間の常言）

○此の帽若し汝ちに適せば取て之を冠れよ（古語）



明治十一年十二月七日 御届
同 十二年一月二日 出版
(定價金拾五錢)

山梨縣平民
編輯並出版人 内藤傳右衛門

山梨縣西山梨郡
常盤町四番地